



いこく



ガハチノゴトカン
新世紀・明日につながる

奉仕の輪

We Serve

LIONS CLUBS INTERNATIONAL

DIST.336-A

2017-2018

意義深い公式訪問

ライオンズクラブ国際協会 336-A 地区

地区ガバナー
川辺信郎

私の地元9リジョン・8リジョンからスタートしたガバナー公式訪問は、真夏日が続く7月、8月から9月まで続きました。各リジョン・チェアパーソン、ゾーン・チェアパーソン、地区委員、そして所属クラブの会長はじめ会員の皆様の心温まるお心遣いと、歓迎にキャビネットを代表して心から深く感謝と御礼を申し上げます。有り難うございました。

公式訪問では、最初にシカゴで開催された第100回国際大会に参加した私の所感を述べさせていただきました。ライオンズクラブ国際協会は、100周年を経て、新たな世紀を迎え、今後3年間、ライオンズの motto である「We Serve (われわれは奉仕する)」が国際会長テーマとなります。

今年度のナレシュ・アガワル国際会長は「力を合わせ私たちは奉仕」という伝統を推進し、世界を皆のためにより良い場所に、今後何世紀ものライオンズに奉仕という遺産を末永く残していきたいでしょう」と新世紀のライオンズの姿を提唱されました。

さらに、私が掲げたガバナースローガン「新世紀・明日につながる奉仕の輪」とキーワード「初心」について述べ、地区運営については、336-A地区の更なる「ステップアップ」と「スモールキャビネットの創成」を目指し、初心に返り全力で取り組む決意を述べさせてい





いただきました。

公式訪問で私が一番大切にしたいことは、クラブ会長はじめクラブ役員の皆様との意見交換、すなわち情報交換並びに情報の共有であります。

クラブの運営はもとよりゾーン、リジョンそして準地区の運営についても検証と見直しなど、時勢に即応した改革・改善を行うとともに合理化を図る必要があります。そのことが新たな世紀を迎えたライオンズなのだ、と訴えさせていただきます。

しかし、クラブ会長との対話の時間は、十分とは言えませんでした。だが素直な意見を拝聴できましたことは、私自身、今後の運営に活かしたいと喜んでいるところです。

ナレシヨナカガワル国際 私自身が課した大きな課題でもある336-A地区の合同アクティビティ「四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう」事業については、佐藤キャビネット幹事よりご説明させていただきましたが、叱責を含め多くのご意見をいただきました。皆様方より良い事業にとの思いの表れであることに、改めて感謝とお礼を申し上げます。

各リジョン選出の役員の皆様と共によりよい方策を創成し、実効性のあるものへと推進していく所存です。今後とも温かいご支援・ご協力をお願いいたします。

会員増強活動におきましては、各クラブが積極的な取り組みをされていることに感謝いたしております。新会員には記念の盾を贈呈し、3名以上の新会員の入会式には、時間の許す限り出席させていただきますのでご一報ください、とお伝えいたしました。

また、MJFを含めLCIFへのご協力に感謝し、更なるご理解とご協力をお願いいたしました。

結びに、会員皆様の温かいご支援、ご協力のおかげで徳島キャビネットの運営も半期が経過します。地区役員・地区委員、クラブ会長のリーダーシップと情熱に感謝を申しあげ、公式訪問の所感とさせていただきます。有り難うございました。



contents

ガバナー公式訪問	
ガバナー所感	1
公式訪問レポート	2
対談 公式訪問に随行して	11
キャビネット報告	14
YCEサマーキャンプ	15
ワークショップ開催	20
クラブ周年行事	24
第56回O S E A Lフォーラム	28
国際平和ポスター審査会	30
二つの研修会を終えて	32

表紙写真撮影
江富久雄 (北島ライオンズクラブ)



日時 9月3日(日)午後1時
会場 ウェルピア伊予

M.C・ライオンズ情報・地区誌
大会参加委員

宮内梨寸子

一番大事な時間が短くなって

残暑厳しい日曜日の午後、ウェルピア伊予に於いて恒例のガバナー公式訪問が開催されました。

ガバナー公式訪問は、リジョンにとつて1年で最も緊張する行事。3時間前から会場設営の準備で、天井の高い会場に1Rの19本のクラブ旗が並び、そこは背筋が二挙に伸びる空間となりました。

総勢115名が、川辺信郎地区ガバナーをはじめとする徳島キャビネット役員の皆様を、大きな拍手と共にスタンディングオベーションでお迎えし、緊張感もピークに。

ガバナースローガン「新世紀・明日につながる 奉仕の輪」、キーワード「初心」。川辺ガバナーのご挨拶では、全てのクラブに寄り添ったガバナーであることを感じ、私も入会時の「初心」を改めて思い出させてもらえました。今年度の合同アクティビティ「四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう」については、佐藤貢地区キャビネット幹事から丁寧具体的に説明して頂きました。参加者が全員、深く理解できた時間であったと思います。

何より感激しましたのは、川辺ガバナーと各クラブの会長・幹事との質疑応答の時間でした。ガバナーは壇上から下りられ、会長・幹事に近付いていかれました。まずその姿勢に頭が下がりました。そして、各クラブの主なアクティビティの発表、それに対する質問、そして激励も。

何度も、何度もクラブの資料を確認しながら、ひとつひとつのクラブに真摯で、丁寧な回答や励ましのお言葉をかけて頂きました。川辺ガバナーのお優しいお人柄に触れた時間でもありました。

ガバナー公式訪問において、この時間が一番大事な時間ではないかと痛感致しました。しかし、進行が押してしまい、この時間が短くなってしまったことは、とても残念なことでした。

川辺ガバナーを中心とするキャビネット役員の皆様には、ご遠方にも関わらず前日から松山入りして頂き、そして1Rの役員との打ち合わせの会など2日間、充実した濃い時間を過ごさせて頂きました。





日時 9月2日(土)午後2時
会場 ホテルグランフォーレ

MC・ライオンズ情報・地区誌
大会参加委員
阿部 国弘

あつという間に過ぎた3時間

去る9月2日、2R地区ガバナー公式訪問が開催されました。まず石川2R-RCより歓迎の挨拶、続いて西原元地区ガバナー地区名誉顧問より「川辺さんは故武久国際理事に師事し、その教えを正統に受け継ぐ最強のガバナーである」との激励の言葉がありました。次いで川辺ガバナーが「今年度はライオンズクラブのメンバー全員で知恵を出し合い、それを行動に移していきましょう」と挨拶されました。

各クラブ会長にオリジナルバナーの進呈、アワード表彰者の発表のあと、今期の新入会員には特別に豪華な盾が進呈される旨の報告がありました。

ガバナー要望事項では、シカゴでの国際本部スタディツアーの参加依頼、「ウィ・サーブ」の言葉には団結の力、奉仕の力、行動の力が込められていること、今期は特別委員会を全て廃止して「スモールキャビネット」を目指したこと、来年4月の地区年次大会への参加要請や分科会が6つに増えることなどの報告がありました。また、年次大会では選挙等を電子投票にする準備を進めているそうで

す。そして、今期の最大の懸案でもある、ライフジャケットを贈呈する336-A地区の合同アクティビティについては、佐藤キャビネット幹事より、あらかじめ予想された反論に回答するという形式で、かなりの時間を掛けて説明が行われました。

休憩をはさんで、各地区コーディネーターや私を含む地区委員からの要望事項の伝達があり、最後に2R17クラブの会長より今期の方針やスローガン、事業計画案などの発表が行われました。国際力強化を目指すアクティビティ、サッカー大会、ブラインドダンス、九州北部豪雨支援、青少年セミナー、遍路道清掃、オークション等々、各クラブそれぞれの特徴があり、説明に熱が入り過ぎてかなり時間の圧した発表にはなりましたが、川辺ガバナーは途中、質問なども返して熱心に聞かれました。109名が参加し、本当に充実した、あつという間に過ぎた3時間でした。川辺ガバナーの真摯な姿勢と熱い情熱が体感できた、実りあるガバナー公式訪問でした。



地区ガバナー公式訪問

Governor's Official Visit



日時 8月20日(日) 1時30分
会場 料苑たる井

MC・ライオンズ情報・地区誌
大会参加委員

渡辺眞次

新世紀にかける夢

8月20日、参加者81名とともに、川辺信郎地区ガバナーを迎え、ガバナー公式訪問が開催されました。

まず、大野勝也3RRCが、ガバナースローガンである「新世紀・明日につながる 奉仕の輪」に込められた川辺ガバナーの思いに対し、私も大いに賛同します、と歓迎の挨拶をされた。

続いて川辺ガバナーは「3Rはライフジャケットを贈るアクティビティの説明のため、帰国直後にガバナーとして最初に訪問した地区です。今日、再びこの地を訪問し、皆様にお会いできたことを大変嬉しく思っております。ガバナースローガンのとおり新世紀に歩み出すにあたり、ウイ・サーブの精神と団結の力をもう一度結集して頂きたい」と挨拶し、続いて次のように要望事項を述べられました。「特別委員会を廃し、IT推進チームを新設し、年次大会に電子投票を取り入れるスモールキャビネットの創生に努めております。

今年も異常気象によるとみられる災害が世界的に多発しており、ライ

オンズクラブのLCIF事業も支出が収入を大きく上回っている状況が続いております。そのため、各クラブ1人当たり50ドルの献金と、より多くの支援金をお願いしたい。最後になりますが、四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろうという336-A地区の合同アクティビティをぜひとも成功させたいので、皆様方のご協力をお願いします」と述べられた。

創立100年を迎えた今、先人のこれまでの努力に思いを馳せ、新世紀に踏み出そうとする時、川辺ガバナーの新たな決意を感じる挨拶でした。私たちも今日の小さな活動を重ねながら、新世紀を生きるメンバーに夢をつないでいけたらよいと思います。

その後、ガバナーより公式訪問の記念品バナーが各クラブの会長に贈呈され、5クラブが100周年記念表彰された。地区委員などの要望及び質疑応答と続き、最後に各クラブ会長が、今年度の目標と抱負を述べ閉会しました。





日時 8月26日(土)午後1時
会場 高松国際ホテル

M.C.ライオンズ情報・地区誌
大会参加委員

水野 彰

ガバナーの熱意我等クラブも

愈々、ライオンズクラブ国際協会の101周年の歴史の幕明けです。

徳島キャビネット、4R地区役員及び4R23クラブの役員、関係者で公式訪問が盛大に挙行され、ガバナースローガンが掲げられた会場は、荘厳さの中に和やかさが感じられました。毎年同じような公式訪問の風景が繰り返されるが、ガバナーが変わるたびに、その思いも変わります。

川辺ガバナーの思いは「四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう」ということです。各クラブの中にも色々な意見があるうかと思えます。しかし、私達一人一人のメンバーがもう一度真剣に考える必要があるのではないかと思います。

2011年、東日本大震災の大被害で多くの子どもたちの尊い命が奪われました。地球温暖化により各地でゲリラ豪雨が発生し多くの命が失われています。これらの事例がガバナーの心を動かし、ライフジャケットにより四国の子どもたちの命を守ろうという行動になったのではないかと推察されます。南海トラフ地震に対しては、命を守ることが最大の奉仕

であります。

キャビネット幹事による長時間の質疑応答がありました。ガバナー自身がクラブの人達に率直にその思いを伝えたらよかつたのではないかと思います。私も個人的ですが、子どもたちの命を守るライフジャケットを贈ることは大賛成です。

クラブ会長が今年度の目標と抱負を話す時間が少なくなり、内容が画一的であったのが気になりました。しかし、ガバナーは壇上から下り、会長の方々の話を丁寧に聞いていたのが印象に残り、また、各クラブの会長から出された諮問の答えを三度も繰り返し読まれたと聞き、真面目な方だなと思いました。

公式訪問の式次第で時間の違いがあり、遠くから来たクラブには大変迷惑がかかったと思いますが、寛容とやさしさ、思いやりがライオンズマンです。

思いを一つにして川辺ガバナーを盛り立て、一致団結してこれからの1年、ライオンズの発展の為に各クラブは会員増強と奉仕に頑張っていきましょう。





日時 8月27日(日)午後1時
会場 ホテルアネシス瀬戸大橋

MC・ライオンズ情報・地区誌
大会参加委員

岡田 学

ガバナーに5Rをアピール

「5Rは一つ」という合言葉をモットーに、1Zと2Zの13クラブは、石川裕之リジョン・チェアパーソンの指導のもと、順調に新年度のスタートを切りました。

公式訪問当日、川辺信郎地区ガバナーをはじめ、キャビネット役員が参加者全員の盛大な拍手に迎えられ入場しました。

司会は高木信義1ZC、石川勉2ZCにより来賓を紹介し、石川裕之5R-RCによる歓迎の挨拶がありました。7月のシカゴでの第100回国際大会においてガバナーに就任したお喜びの言葉。そして、各種団体の要職に就かれ、徳島の経済界においてなくてはならない素晴らしい人物である、と川辺ガバナーを紹介されました。また、「おしゃれな人でもあり、いつもはキャビネットのネクタイではなく、かなり人目をひくスカイブルーのネクタイをされている」と付け加えられ、参加者の笑いを誘っていました。

我が5Rは一致団結したリジョンであり、LCIFについても全会員が献金をしています。また、MJF

でもダントツの献金額を誇り、5Rは336-A地区を代表するリジョンであり、日本一のリジョンだと自負しており、川辺ガバナーとしても安心のできるリジョンだと思ふ、と述べられた。

次に、真鍋隆前ガバナーは、「無事、ガバナーとしての職責を全うできたことを心から感謝し、御礼を申し上げます。公式訪問は直接ガバナーに親しく接する絶好の機会です。川辺ガバナーはライオンズクラブについて経験豊富な方です。今年度は5Rから元氣を出して、四国から、さらに全世界へと奉仕の輪を広げてください」と、挨拶と激励の言葉を熱く語られた。

休憩後、川辺ガバナーからの要望事項ではスモールキャビネットの創成、特別委員会の廃止、IT推進チームの新設、年次大会への参加要請、ライフジャケット配布等についての説明がありました。

また、各地区コーディネーター及び各委員からの要望事項があり、続いて各クラブ会長が抱負と目標を述べ、公式訪問を終えました。





日時 8月5日(土)午後1時
会場 三翠園

MC・ライオンズ情報・地区誌
大会参加委員

藤戸啓朗

心にしみたガバナーの言葉

「今こそ団結が必要です」川辺信郎 336-A地区ガバナーの物静かだが力強い声が会場の隅々にまで響き、居並ぶ6Rの会員たちの心にしみ込みました。

8月5日、高知市内の「三翠園」において、336-A地区6R地区ガバナー公式訪問が川辺地区ガバナーを迎え開催されました。

冒頭、近藤御風6R・RCの歓迎の挨拶に引き続き、来賓の方々の挨拶ののち、冒頭に記したカバナーの発言があり、また報告としてIT推進チームの新設や、年次大会の投票の電子化、分科会の構成変更等についての話がありました。

また特に、川辺ガバナーが力を入れている336-A地区合同アクティビティー「四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう」について川辺ガバナーの「会員増加が難しく、思うように奉仕活動ができないクラブも散見される中、本件をきっかけに奉仕活動をわれわれの手に取り戻そう。ぜひ全クラブが参加して欲しい」との不退転の決意が示されました。

それを受けて佐藤貢地区キャビネット幹事から、クラブとしての参加の形は協力奉仕型(クラブとして例えば会員一人当たり〇〇円を目標に拠出)もしくは、事業奉仕型(例:周年事業、チャリティ事業などで拠出)などが考えられること。また品目はライフジャケットに絞り込んでいるが、それぞれの地域の実情と特性を生かした配布が望ましい、と詳細についての説明がありました。

この合同アクティビティー「四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう」に関しては、6月の事業説明会や本日の川辺地区ガバナーの決意を受けて、6Rとしての一致団結した総意が形成されたという感を強くしました。

最後に6R17クラブの会長が、本年度の抱負を川辺地区ガバナーの前で力強く述べ、川辺地区ガバナーはそれらの抱負を一生懸命に、そして真摯に聞いていました。

そうした熱気の中、一層団結を高めて6R地区ガバナー公式訪問は閉会しました。



地区ガバナー公式訪問

Governor's Official Visit



日時 8月6日(日)午後2時30分
会場 高知プリンスホテル

MC・ライオンズ情報・地区誌
大会参加委員

坂東伸政

やる気がひしひしと伝わってきた

7Rのガバナー公式訪問には、川辺信郎地区ガバナー、関野邦夫第一副地区ガバナー、山路章靖・三谷智省・橋本充好・長谷川憲男の元地区ガバナー・地区名誉顧問の方々、佐藤キャビネット幹事、宮島キャビネット会計、7Rからは山本哲美7R1RCをはじめZC、地区役員、7クラブ会長、クラブ役員の総勢87名が出席しました。

まず、川辺信郎地区ガバナー、関野邦夫第一副地区ガバナー、佐藤キャビネット幹事、宮島キャビネット会計の順で入場が始まりました。この時、参加者全員が総立ちで盛大な拍手でお迎え致しました。

出席者紹介の後、山本哲美7R1RCによる歓迎の挨拶、長谷川憲男地区名誉顧問から地区ガバナーへの激励のことばの後、川辺信郎地区ガバナーのご挨拶、関野邦夫第一副地区ガバナーのご挨拶の順でスムーズに進行して行きました。

ナレシユ・アガワル国際会長のテーマは「ワイ・サーブ」、336-A地区スローガンは「ライオンズクラブのキーは奉仕することである」、ガバ

ナー スローガンは「新世紀・明日につなごう 奉仕の輪」を掲げ、新しい風を吹かせるというやる気がひしひしと伝わってきました。

その中でも、「初心」というキーワードの中には、会員増強、特に女性会員の増強について非常に強調されておりました。また、今期336-A地区全クラブが参加しての合同アクティビティ「四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう」が今回の公式訪問の目玉です。キャビネット幹事がスライドを使って、この合同アクティビティがいかに必要かつ重要であるか、四国の中でも特に海沿いの徳島や高知の子ども達の為に336-A地区全クラブに資金提供を募り、成功に導いていく姿に熱いものを感じました。

この事業を通じて336-A地区の会員全員が一つになる事が出来れば、素晴らしいアクティビティであり、これこそがライオンズクラブの奉仕の世界であると思われれます。

その後、川辺ガバナーを交えての懇親会が最高に盛り上がった事を付け加えさせて頂きます。





豊富な経験を運営に生かし

日時 7月30日(日)午後1時
会場 徳島グランヴィリオホテル

M.C.ライオンズ情報・地区誌
大会参加委員

北島 隆

8Rの336-A地区ガバナー公式訪問は、酷暑の続く7月30日に挙行され、会場には8R14クラブのクラブ旗が整然と並んでいました。

ステージ中央の国旗の左にナレシユ・アガワル国際会長のテーマ「ウィ・サーブ」、右にガバナースローガン「新世紀・明日につながる 奉仕の輪」が掲げられていました。

定刻になり川辺ガバナーを先頭に佐藤キャビネット幹事らが拍手で迎えられて入場し、厳粛な雰囲気の中で公式訪問が始まりました。

司会はホストクラブの徳島マリソピアライオンズクラブの吉田禎之会長が務め、地区役員・委員、クラブ紹介などのセレモニーが粛々と進行していききました。

仁木孝教8RRCの歓迎の挨拶があり、次いで木内千春地区名誉顧問が「川辺ガバナーは、故武久一郎元国際理事の片腕としてご尽力いただきました。その経験を生かし、皆様が活動しやすい土壌を作り、なお一層頑張つて欲しいと思います。川辺ガバナーのご活躍に期待をしております」と激励しました。

川辺ガバナーより公式訪問を記念し、バナーが各クラブ会長に贈呈されました。川辺ガバナーは今年度の運営方針とともに、「336-A地区すべてのクラブの共同事業として、震災に備えてライフジャケットを贈ろうとしておりますので、ご協力をお願いしたい」と述べられた。最後に「皆様のお支えを頂きガバナーを努めさせて頂いており、全てのクラブの皆様へ寄り添った活動をして参りたいと思っております」と温かいお言葉を頂きました。

佐藤キャビネット幹事からもガバナー同様にライフジャケット贈呈の意義やその方法についての要望がなされました。

休憩後は公式訪問の締めくくりとして、各クラブの会長が会長としての抱負やクラブの事業計画、会員増強目標などが、限られた短い時間でしたが力強く発表した。川辺ガバナーは、時には頷き、時には苦笑いを交え熱心に聞いていました。

仁木孝教8RRCの閉会宣言、閉会ゴングでガバナー公式訪問は、滞りなく終了しました。





日時 7月29日(土)午後1時
会場 阿波観光ホテル

MC・ライオンズ情報・地区誌
大会参加委員

和田 寿子

雑壇から見えた景色と感じた事

酷暑の中を阿波観光ホテルでガバナー公式訪問が開催されました。ほとんど空席のない、各クラブとも素晴らしい出席率でしたが、なぜか上着を脱いでいる人が多く、扇子の動きも目につきました。ボーイさんに聞くと、クーラーが故障しているとのことでした。

会場には9R13クラブの旗が並び、緊張感が高まってきました。定刻の1時になると川辺地区ガバナーが、出席者の方々の大きな拍手に迎えられ、入場されました。

来賓やクラブ紹介、歓迎の挨拶に続き、我がクラブの大先輩である木内千春地区名誉顧問より激励の言葉が贈られました。

ガバナーからの記念品贈呈の案内に、各クラブの会長が一斉に上着を着て、演壇の前に整列しました。川辺ガバナーは「ジャパンブルーにクラブ名などを入れてあるので、よそに持って行っても使えませんが」とジョークを交えながら各クラブの会長にバナーを手渡されました。皆、笑顔で受け取っており、親睦を深めたように見受けられました。

要望事項の中で、336-A地区の合同アクティビティとして提案した「四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう」について川辺ガバナーが思いを語りました。続いて佐藤キャビネット幹事からも熱のこもった説明がなされました。

海辺の子どもには必要だが、山間部はヘルメットが良い等の意見も聞かれ、こうした地域差もあり、それらの考えを一つにまとめることの難しさを改めて思いました。

しかし、336-A地区初の試みであり、合同アクティビティなので一致団結して取り組み、成功させ、2回3回と続け、リジョンごとのアクティビティに広がれば、ライオンズクラブにより活気が出ていいなあ、と思いつながら拝聴しました。

休憩後に各クラブの会長より今年度の目標と抱負が力強く発表され、ガバナー公式訪問は、出席者103名の熱気で熱く、暑く？進み終了しました。

今回、ガバナーの思いを間近で聞くことができ、私もこの1年頑張らなければと決意を新たにしました。





ガバナー公式訪問に随行して

7月29日の9Rから始まったガバナー公式訪問は、9月3日の1Rまでほぼ毎週(土・日)行われた。川辺ガバナーは、この間に336複合地区ガバナー協議会に出席するなど、まさに休む暇のない日々が続いたが、絶えずガバナーに同行している佐藤貢キャビネット幹事も宮島直文キャビネット会計にも休みのない日が続いたことになる。そこでキャビネットの重責を担い、常に川辺ガバナーと行動を共にしているお二人に、ガバナー公式訪問に随行した感想や壇上から見た印象などについてお聞きした。

やはりハードな日程だった

Q お疲れ様でした。長丁場ですが体調を崩したりしませんでしたか。
佐藤 シカゴでの国際大会の直後だったので、時差の影響を引きずり、体調維持に苦心しました。
宮島 お陰様で、私は元気に回れました。

Q お二人は、公式訪問に随行するのは初めてですか。
佐藤 初めの経験でした。
宮島 もちろん、私も初めてです。

Q そうですが、それは意外ですね。相当、ハードな日程でしたが、どのような感想を持たれましたか。
宮島 毎週、土日の訪問で曜日の感覚がなくなっていました。

Q 県外の場合は泊りがけが多いですからね。佐藤幹事はどうでしたか。
佐藤 ハードなのは確かですが、徳島キャビネットの方針を早く伝えられたので、この過密日程もやむを得ないと思っていました。

Q 当日、ガバナー諮問委員会を開いたりジョンもあります。全体はどうでしたか。
宮島 各リジョンそれぞれでしたね。
佐藤 全体的には、同日開催が多かったです。

Q 同日開催のメリットを、何か感じられましたか。
佐藤 同日開催の場合、その委員会の結果を立ち話などで聞くことができ、参考になりましたが……。
宮島 出席者には、会議が1日で済

むというのがメリットかもしれないですね。厳密に言えば、別開催が望ましいのでしょうか……。

ステージに座って感じた事は

Q ステージに座られましたか。どんな印象を持たれましたか。
佐藤 立ち位置が逆転すると景色も変わりますね。人の発言は、真摯に聞き入るべきという教訓を得ました。発言中にもズツと、スマホを触っている人がいたりして……。そういうのって、目につくんですよ。

宮島 確かに分かりますね。それ以上に慣れないところに座り、緊張の連続でした。しかし、ステージから見ると、そのリジョンやクラブの顔、性格が見えるのも確かです。

Q 公式訪問全体の様子とか印象について、お伺いしたいのですが。

佐藤 リジョンによって、ライオンズへの向き合い方に差異があることを実感しました。その意味では、リジョン・チェアパーソンやゾーン・チェアパーソンにも他リジョンの公式訪問を見てもらえたら、刺激を受けるいい機会になると思います。





佐藤貢キャビネット幹事

宮島 私も同感です。具体的にここが、あそこがというわけではないんです……。しかし、リジョンごとにライオンズへの取り組み方、意識、自覚にすごく温度差を感じましたね。
佐藤 だからこそライオンズへの知識と熱意の高揚に向けて、キャビネットに与えられた仕事は軽くない、という事も知りました。

合同事業の説明は尽くしたが

Q ガバナーは合同事業にも触れましたが、出席者の反応のようなものを感じましたか。

宮島 ライフジャケットについては、先にキャラバンで各リジョンを回り、公式訪問でも丁寧な佐藤幹事が説明

しましたが、まだ十分には理解、納得されないように感じられましたね。これからも分かり易く丁寧に理解を求めていく必要があると思う。会計としては、報告とお願いに終了しましたが……。

Q 佐藤幹事は合同事業についての説明にかなり時間を割きましたが、手応えを感じましたか。

佐藤 合同事業の説明は、基本方針と同類ですので、是非とも聞いていただきたいと力が入りました。しかし、説明が広範囲に及んだため、聞き手側は消化不良となったという印象もありますね。

Q 四国は海あり、山ありと広いし、

前例もありませんしね。

佐藤 確かに災害に対するスタンスも違うし、前例のない事業です。丁寧に細かく説明すればするほど、迷路に入っていくような焦燥感がありました。ただ、私の説明に多くの質問をいただいたことは収穫でした。

Q 出席者は初めて聞きますが、各リジョンごとに同じようなことを話すのは大変ですね。

宮島 佐藤幹事に焦燥感があったなんて感じなかったですね。回を重ねるたびに、説明にも説得力が増してきたように思えました。会計としての私は、毎回同じようにお金のお願いはかりしていました。

佐藤 そんなことはありません。同じことを話す連続でもないんです。前回のマズかった部分を修正したり、地域性も取り入れて、私自身「新鮮味」を失わないように心がけました。

リジョンによる違いは

Q 各リジョンとも公式訪問の意義を認めていると思いますが、余り熱意のようなものは感じられないという声も聞かれます。準備も含めて印象に残ったリジョンがありますか。

宮島 私は全てのリジョンが精一杯の準備をして頂き、スムーズに事が運んでいたと思っております……。

佐藤 進行係が「この機会にガバナーに訊きたいことがあれば……」と、

発言を促していたリジョンもありました。だからと言って熱意がないわけではない。

Q 発言の多さと熱意は、必ずしも一致しませんね。

佐藤 その通りだと思います。熱意を表現する術は多様で、休憩時間にライオンズの現状と将来を熱く語りかけてくれた会員も多いんです。ここで受けた質問のすべては「公式訪問の意義」を感じたうえで「公式訪問の問いかけからキャビネットも多くを学びました。

Q 得たものがたくさんあるということですね。ただ、公式訪問は発言の機会が少ないとか、ガバナーと直接話がしたいという意見も聞かれますが。

佐藤 ガバナーとの直接の質疑を増やす方策として「よく似た質問を繰り返さない」という配慮もいるかもしれません。

宮島 確かに大人数が限られた時間に発言するので、各クラブの発言時間には限度があります。しかし、発言者にも原稿を読むのではなく、生の声をぶつけるような工夫というのか、何かを訴えていると感じられるものが欲しいですね。

公式訪問で見えてきた事

Q プロトコールも大切ですが、逆



宮島直文キャビネット会計

に形式に流れているようにも感じられ、工夫の余地はあると思いますが。

佐藤 リジョン・チェアパーソンには限られた時間を効率的にプログラムミングすることが求められ、キャビネットにはプログラムのどの項目にストレスを置いて進行させるか……の能力が問われます。その相乗効果が得られたら多くの質疑時間を設けることができるのではないかと……。

宮島 1Rや2Rはクラブが多いので、どうしても発言時間が少なくなりましたね。こうしたリジョンでは、そうした点が大切になりますね。

佐藤 徳島キャビネットではメールでの質問にも応えています、やはり現場での「顔対顔」のやりとりは事務的に流れず、貴重な時間だと思っ

ています。

Q クラブ紙では要望事項については余り書いていませんが、要望事項がストレートに響かないのでは……。

佐藤 要望事項はガバナー（キャビネット）の基本運営の骨格です。ただ、この要望事項はとかく総花的に流れるくらいがあります。この「総花的」になるのは、すべての分野で各クラブが抱える問題をすくいとりたい……という思惑からです。

宮島 確かに拝聴していると、項目によってクラブの喰い付きと言いますか、興味の示し方、反応の仕方が違うのが分かりますよ。

佐藤 各クラブが抱えている問題が百様である故に、それが自クラブの

問題とはかけ離れている場合には、他人事なのでクラブ紙に反映され難いのだと思います。

懇親会は必要か否か

Q 各リジョンで懇親会を開いたと思いますが、懇親会に意義を感じましたか。

佐藤 各リジョンで懇親会がありました。懇親会の是非は果てのない議論です。懇親会を続けているリジョンは一度、止めてみたら別の世界が見えるかもしれませんし、その逆も同様でしょう。

宮島 各リジョンで開いていたいただきました。私は直接お話ができる良い機会、人と人とのコミュニケーションがとれ非常に良いと思っています。ガバナーや幹事も懇親会では積極的にテーブルを回り、意見を聞くようにしていたと思います。

佐藤 簡単な「前年踏襲」は避けてみたらいかがでしょうか。宮島さん同様、私も人と人が胸襟を開ける場とすれば貴重な時間だと思えますが、個人的には「懇親会廃止派」です。それで登録料が安くなれば別の効果もあるはずですよ。

宮島 お酒の飲めない方や車で来た方から「懇親会はいらないよ」という声を聞くこともあります。公式訪問ではないんですが、逆に「懇親会もないのか」という声も聞く。どちらにしても、主催者には悩ましい問題

題ですね。

公式訪問の意義とは何かを

Q その通りですね。私も車で来た時は反対派ですから。公式訪問の意義、あり方などについてのご意見をお願いします。

佐藤 公式訪問はキャビネット運営の最大行事です、A地区のナマの声はここから発つされ、ここに集約されます。一部、プロトコールに違和感を覚える場面もありましたが、キャビネットはリジョンに支えられている事実を認識できた公式訪問でした。感謝しています。

宮島 1年間の短い任期ですので、できる限り多くの方とお会いし、多くのご意見を直に聞く、という意味においても大変意義があると思います。しかし、キャビネットの方やリジョンには大変、ご苦労をおかけして申し訳ないですね。

Q 公式訪問の総括は、まだまだたくさんあると思いますが、最後に「あなたにとってのライオンズクラブ」とは何でしょうか。

佐藤 「自分磨きの一里塚」です。
宮島 「自己啓発と仲間作り」です。

まだまだこれから息の抜けない日々が続くと思いますが、健康に留意して頑張ってください。お忙しい中を有難うございました。

国際第一副会長の 公式訪問並びに歓迎晩餐会に出席

FWT地区コーディネーター 齋藤 翠



来期はライオンズクラブ初の女性国際会長の誕生が期待されている。
グドラン・ビョート・イングバドター国際第一副会長ご夫妻で出席された晩餐会では、FVT東日本エリアリーダーの小川晶子さんへの国際会長賞の授与があり、グドラン・ビョート・イングバドター国際第一副会長は、引き続きFVTに力を注いでいく方針であるとのことであった。その後のアトラクションでは、よさこい踊りもあり盛会であった。

11月27日、東京の帝国ホテルにてグドラン・ビョート・イングバドター（アイスランド）国際第一副会長の公式訪問並びに歓迎晩餐会が開催され、公式訪問は16時30分から本館2階の「孔雀西の間」で、また歓迎晩餐会は18時30分から本館3階の「富士の間」で開かれた。
330～337複合地区のガバナリーなど405名が参加し、336複合地区からは川辺ガバナリーなど16名、336-D地区の女性ガバナリーである秋田千鶴（浜田ライオンズクラブ）さん、FWT地区コーディネーターの私も出席した。
グドラン・ビョート・イングバドター第一副会長は、アイスランド大 学生涯教育研究所の副所長を務め、



第2回キャビネット会議を開催

年次大会実施要項等について審議

11月5日、午後1時よりホテルサンシャイン徳島において、川辺ガバナリー、リジョン・チェアパーソン、ゾーン・チェアパーソン、地区委員長などが出席し、第2回キャビネット会議が開かれた。

会議は佐藤キャビネット幹事の司会で進行し、川辺ガバナリー、真鍋地区名誉顧問会議長などの挨拶の後、議案審議・確認と報告事項に移った。審議事項では第64回336-A地区年次大会実施要項、収支予算案、代議員分科会構成などが審議された。

大会は4月7日の記念ゴルフ大会、日韓国際交流の夕べ。8日の指名選挙、代議員分科会、代議員総会、大会式典などが実施され、その実施要項が決まった。特に分科会については、昨年の3分科会が6分科会にな

り「代議員でない会員においても各自の希望分科会に出席し研鑽を深める分科会とする」と会員の参加に言及し、分科会の活性化をはかった。

確認事項の中では、大会における電子投票が注目される。その手順は「クラブ代議員の任命」「任命確認書の発送」「投票」となる。まず12月中旬には「クラブ代議員任命要領書」と案内書がクラブに届くので、よく読んで欲しい。次いで年次大会の登録と振込及び資格が確認された代議員に電子投票を行うURLとパスワードが記された「任命確認書」が届き、4月6日から8日（8時40分～9時20分）に地区ガバナリー、第一副地区ガバナリー、第二副地区ガバナリーに対する投票を行う。初めての試みであるが、3月中旬には投票手順書と案内書が送付されるので、代議員はそれに従って投票することになる。

休憩後、地区委員長などの報告を行い第2回キャビネット会議を終了した。



YCE Camp

2017年7月17日~7月19日 in 徳島

2017-2018 ライオンズクラブ国際協会 336-A・B 地区

家族の一員として外国の家庭に一定の期間滞在し、その間に自国の文化を伝え、訪問国の文化を学び日常生活を体験する。訪問先の人々と相互理解を深め、国際感覚を養い親睦と協調の精神を培う、それがYCE（ユースキャンプ及び交換プログラム）の目的です。



世界中のさまざまな文化にまたがるグローバル市民の育成

歴史と文化を有す「徳島」を 体感したサマーキャンプ

YCE・ライオンズレオ・
国際関係委員会 委員長

高橋寛治

7月17日(月) 第1日目

◆開村式

坪井副幹事はじめYCEサマーキャンプ関係者一同、J R 徳島駅にYCE生を出迎えた。3、4名ずつタクシーに分乗し、今回の宿泊先である徳島グランドホテル借楽園に向かった。ホテルに到着したYCE生らは、早くもフレンドリーに言葉を交わしていた。

開村式は午後3時より佐藤貢キャピネット幹事の司会により開始。清野理8RYCE・ライオンズレオ・国際関係委員の開会宣言、太田健一336-B地区ガバナー、川辺信郎336-A地区ガバナーはじめ関係各位の歓迎の挨拶に続き、来日したYCE生が自己紹介。4日間のサマーキャンプのスケジュールが説明され、記念品が贈られた。最後に9R橋本嘉胤YCE・ライオンズレオ・国際関係委員が開会の挨拶を行い開村式を終了。

今回、来日したYCE生は、336-A地区へは女子4名(台湾2名、クロアチア1名、トルコ1名)、男子1名(台湾)。336-B地区へは女子3名(フィンランド2名、ス



ロバキア1名)、男子2名(アメリカ1名、台湾1名)の10名。さらに地元の城東高校、城南高校、徳島市立高校より8名(男子7名、女子1名)が加わり、18名でサマーキャンプを実施し、2名の教諭OBにもご協力を願った。

開村式のあと、YCE生に徳島の観光や産業などの紹介ビデオを見てもらった。

初めて顔を合わせたYCE生同士が、早く馴染めるようにと椅子を丸く並べて着席した。クエスト方式にゲーム感覚で自己紹介をしてもらうと、たちまち緊張もほぐれ、日本の高校生とも皆すぐに打ち解け、和やかな交流の輪ができた。「チャンスがあれば、是非もう1度やりたい」という感想の声も聞こえるほどYCE生に好評であった



YCEサマーキャンプ参加者

336-A地区

- Sara SETINA (クロアチア)
- Sila FURTUNA (トルコ)
- Tsui Yu Cheng (台湾)
- Chang Hsin-Yun (台湾)
- TSOU. HSIN-YU (台湾)

336-B地区

- Gabriel R. Hahn (アメリカ)
- Pinja KAUNONEN (フィンランド)
- Katariina YIMONEN (フィンランド)
- Zora KONJAROVA (スロバキア)
- Li, Yu-Chun (台湾)



7月18日(火) 第2日目

◆人形浄瑠璃鑑賞、
藍染め体験、渦潮見物

2日目は来日の疲れも見せず、全員が予定時間に朝食をすませて集合。ホテルより水際公園まで歩き、両国橋北詰の乗船場から新町川を遊覧しながら阿波十郎兵衛屋敷へ向かうという予定であった。しかし、降り始めた雨は風を伴い強さを増していた。クルーズを楽しみにしていたYCE生も多かったが、安全を優先し、急遽バス移動に変更。

バスの到着を待つ間、希望者を募り、近くのコンビニへYCE生と買い物の練習がてらに出かけた。チャーターしたバスが到着し、阿波十郎兵衛屋敷に向かう。阿波十郎兵衛屋敷では、徳島に所縁のある「傾城阿波の鳴門」を鑑賞。YCE生の目に映った人形浄瑠璃は、日本のアニメ文化との違いを感じたようで、「これはマリオネット文化なのか」と感想を述べるYCE生もいた。

昼食は場内のレストランで、和食の季節料理を食べた。皆、上手にお箸を使い、美味しそうに食べていた。

午後から再びバスに乗り、藍染工房ルアフに移動する。ルアフは「木灰醗酵建て」による藍染を行っている工房で藍染の体験ができ、工房のスタッフに指導を受けながら、YCE



E生が藍染にチャレンジした。有名なジャパンブルーというのは、YCE生もよく知っているようであったが、藍染めの工程は知らないようであった。今回初めて、藍の液から取り出すと茶色になり、空気に触れて変色し、やがて藍色になることを知ったようである。藍染めは完成までに非常に手間がかかることが分かったようだ。アートの得意なYCE生もいて、絞りのハンカチ等個性的でハイセンスな作品を楽しみながら作っていた。



藍染工房ルアフをあとに鳴門の「渦の道」へ向かう。海上45メートルのガラス床からのぞき込む渦潮に歓声が上がった。スリル満点の大鳴門橋を歩き、千畳敷より鳴門海峡をバツクにそれぞれに記念写真を撮っていた。2日目の予定を終了し、時間は予定より少し早かったが、バスはホテルに向かった。前夜YCE生が「徳島のアニメショップを見てみたい」という希望の声が上がったことを思い出し、急遽、東新町に寄った。徳島といえばアニメの街としても知られており、「アニメイト徳島」等アニメショップツアーを東新町商店街に行った。日本のアニメやゲームはYCE生も大好きで、ナルト、ワンピース、アイドルマスターやジブリ作品等がすらすらと上がった。興奮冷めやらぬ感じでホテルへ戻り、キャンプ2日目を終えた。



7月19日(水) 第3日目

◆眉山山頂観光、阿波踊り
見学と体験、大谷焼の体験、
霊山寺参拝

前日の雨も上がり晴れ上がった3日目は、ホテルから徳島市の景観を代表する眉山山頂に案内。ロープウェイで6分、標高290メートルほどの山ではあるが、山頂からは徳島市内をほぼ一望でき、遙か紀伊水道まで見渡すことができた。

山頂から下りロープウェイの起点である阿波踊り会館へ入館。この会館は阿波踊り関係の展示もあるが、何よりも観光客が阿波踊りの実演を楽しむことができる観光スポットでもある。

観客席で阿波踊りを見ている時からYCE生はぞめきのリズムを取り、舞台上上がり踊りの指導を受ける頃には、興奮も最高潮に達した。この体験はYCE生全員が、心から踊りを楽しんでくれたように感じた。

昼食の「うどん」に舌鼓を打ち、鳴門市大麻町にある大谷焼の森陶苑に移動。森陶苑では大谷焼の轆轤を回しているところを見学。マグカップやお皿の絵付けに挑戦した。思い思いの絵を描き込み、徳島での楽しい思い出づくりに一役買った。

最後に森陶苑から四国八十八ヶ所霊場の第一番札所霊山寺に向かう。四国遍路は従来の仏教信仰に基づく

ものや、現世や来世の利益を期待する巡礼者も大勢いるが、現代においては自分探しや癒しとしての巡礼者も少なくない。また、外国人の姿も増えている。

日本の歴史や文化に高い関心を抱いており、霊山寺での参拝はYCE生にとって興味深い体験の一つであった。

YCE生は16歳から23歳の若者だが、日本、中でも豊かな歴史と文化を有す「徳島」を体感し、楽しむことができたと思う。

7月20日(木) 第4日目

◆徳島城博物館、閑村式

最後となる4日目。今日も暑く、朝食後いつものように熱中症対策に冷えた飲み物のボトルをYCE生たちへ渡し、ホテルを出発。

徳島城博物館へ9時30分入館し、夏の企画展「殿様ライフ―徳島藩主蜂須賀家の生活―」の展示資料の説明と案内を受けた。その後、YCE生は初めての十二単と鎧兜の着用体験をした。特に鎧兜には、男子も女子も興味津々の様子で、鎧兜を身に付けたYCE生は、自分の「サムライ」姿にとっても感激していたようである。次は表千家の方々によるお接待で、お茶の体験をした。「茶道」は日本独特の文化で、単にお茶を飲むだけでなく、いわば総合芸術で、YCE生





YCEサマーキャンプ感想

ピンラ カノネン(フィンランド)

たくさんの体験をして、徳島の事も知ることができて良かったです。日本人の生徒さんにも会って、いい友達になれるかもしれないと思いました。

また、他のYCEに参加している外国人の生徒に会えたのも嬉しかったです。彼らとは親しくなれたと感じました。

けれど、滞在ホテルの食事はあまり美味しくなかったです。それからYCEに参加している他の人や、日本人の生徒さん達ともっと一緒に過ごせたら良かったと思いました。例えば、晩に外でフリータイムなどを設けられたかと思いました。

カタリナ ティモネン(フィンランド)

毎日たくさんの違う事をしたのは良かったです。アートや自然、他の人達と一緒に過ごせたのは良かったです。

私はこのプログラムはとても良いと思いました。たくさんの良い人達に会えました。また、日本の高校生の人達と会えたのも良かったです。

このキャンプに参加させてもらってありがとうございました。

ガブリエル ハーン(アメリカ)

出会った人達と過ごしたのはとても楽しかったです。特に藍染や街に出たことが印象に残っています。

ただ写真を撮るのが少し多く、自由時間が少ないと思いました。

また、私達に与えられたルールが明確さに欠けていると感じました。

Arigatougozaimashita(ありがとうございました)ガブリエル

崔宇成(台湾)

このサマーキャンプに参加できてとても楽しかったです。いろんな国の新しい友達と出会いました。

第二日目は雨のため予定が少し変更となりましたがみんなで一緒に行動できたことが、とても素晴らしかったです。

また、友達と中国語で話せたら良いなあと思いました。

が短時間で理解するのは難しかっただろう。
表千家の方々によるお点前の間、YCE生は30分もの長い時間の正座に耐えていた。恐らく正座など初めてのことであろう。お茶を味わうには程遠かったかもしれないが、YCE生の礼儀作法は、すばらしいと感じた。
足の痺れがとれるまで、YCE生は皆はしやぎまわっていた。館内から国の名勝に指定されている旧徳島城表御殿庭園に出た。回遊式庭園で、桃山様式をよく残していると言われるが、詫び寂の文化は各YCE生の自国の文化と違った面白さを感じたと思う。旧徳島城表御殿庭園をあとに、昼食会場のホテルサンシャイン徳島へ向かった。
昼食はバイキング形式で、食べ物

も飲み物も自由に選択できるので、YCE生には好評であった。異国の地、日本の徳島で偶然一緒になった10名のYCE生とスタッフ最後となる食事であった。だが彼、彼女にはそんな哀愁などみじんも感じられず、満腹感いっぱい宿泊先のホテルに向かった。
ホテルに着き帰り支度などすませ、午後2時から閉村式を行った。
336-A地区橋本9RYCE・ライオンズレオ・国際関係委員の閉会の言葉、336-A川辺地区ガバナ、336-B地区難波YCE・ライオンズレオ・国際関係委員長より御礼の言葉が述べられ、村木キャピネット副幹事が閉会式の終了を宣し、336-A・B地区合同YCEサマーキャンプを終了した。
その後、YCE生はそれぞれのホ

ストファミリールとともに徳島をあとにした。私たちは、少しの安堵感と共に彼らの今後の健闘を祈りつつ、YCE生たちを見送った。
まず開会式、閉会式にあたり、336-A地区では川辺ガバナ、大島竹雄YCE実行委員長、336-B地区では太田健一ガバナ、難波YCE・ライオンズレオ・国際関係委員長をはじめ、地区委員、スタッフの皆様は大変お世話になり、有難うございました。
この徳島サマーキャンプの講評としましては、スケジュールに無理なく、YCE生達の声を聞きながら臨機応変にスケジュールをこなすこ

委員長講評

とができました。
全体として時間的には余裕をもって、YCE生の希望を取り入れ、日本文化のアニメや徳島の若者と国際交流ができ、有意義なキャンプであったと思います。
若者は世界の未来を開拓します。また、無事に楽しくサマーキャンプを完了できたことにYCE生をはじめ受け入りのホストファミリール、ホストクラブ、関係クラブ、皆様のご協力に心より感謝申し上げます。



ライオンズクエスト「ライフスキル教育」 ワークショップ開催



今夏も坂出・鳴門・土佐・高知土佐みずきライオンズクラブが支援し、多くの参加者を得て、8月に坂出市・鳴門市・土佐市でワークショップが、そして高知市でセミナーが開催された。
参加者は「ライフスキル教育」を学び、修了証を手に、それぞれの学校や地域に戻り、ライフスキルの実践を目指している。

小さなクラブの結成2年目の決心

—ライオンズクエスト・ワークショップを開催—

高知とさみずきライオンズクラブ
齋藤 明子

今年、高知とさみずきライオンズクラブは、結成15周年を迎える運びとなった。

結成2年目には、四国ではどこのクラブも実施したことの無い「ライオンズクエスト・ワークショップ」を初めて開催した。

長く教員をされていた当クラブの北泰子会員（当時）が自費で名古屋までセミナーを受けに行き、このプログラムの必要性を確信した直後のことである。蓄えもない小さなクラブの私たちは、個人でその費用を出し合い、「ライオンズクエスト・ワークショップ」を市内の高校教員に向けて開催した。

それは大きな一歩と共に、大きな山にぶつかった瞬間でもある。見切り発車の中で、クラブ内の理解を深めるため、まず、ライオンズクエスト特別委員会を設けた。そして、機会あるごとにゾーンで、リジョンで、ライオンズクエストの話をさせて頂いた。

今までに取り組み例のない活動に「なんですか、それは」と、興味よりも煙たがられることも度々あった。しかし、取り組みを進める中で、クラブ内の理解が深まっていったからこそ、続けてこられたのではないかと思う。

女性は子育ての中で、子どもの成



長は継続的なことであることを身を持って知る。それは果てしなく長い道なのである。近年、「育メン」という言葉が生まれたように、子育てにかかわる男性も増えた。今回、余裕の出来た年齢層でセミナーに参加して下さった方からの「孫のために学びたい」という言葉が印象に残る。また一歩進む力を貰ったと思う。これからのライオンズクエストは学校現場だけでなく、子どもを取り巻くすべての環境の中で実践されていくことが理想だと感じている。まだまだ課題は続く。それゆえ広がりへの希望は開けていると確信した、この夏のセミナーだった。

今夏のセミナーは次年度への繋がり

今年も原点に戻り、より多くの人が参加し、理解して頂くことに重点を置いたので、参加者の負担を少し軽くした。

8月19日に高知県民文化ホールで、保育園・幼稚園・小・中・高等学校関係者、青少年の教育に関わっている方・ライオンズクラブのメンバーなど25人が参加し、半日セミナーを開催した。

あらかじめ北山敏和講師にお願いし、高知市内のライオンズクラブや教育関係者の方たちの興味のある課題にポイントを置き、それぞれのクラブが行っている活動とライオンズ

クエストの繋がりなどを講演して頂くことにした。

参加して下さった学校関係者や青少年教育にかかわっている方からは、すぐに使える内容と共感してもらえた。また、幼稚園教育関係者の参加者には、今年の7月より導入された保育園・幼稚園対象のプログラムに興味を持ってもらうことができた。次年度への大きな繋がりが出来た事

第7回土佐ワークショップ 来年は予定すると言われ

8月24日(木)・25日(金)の2日間、土佐市USAくろしおセンターにて、土佐市内小中学校の先生方に参加を呼びかけ公募型で行い、土佐清水中学校から2名の参加があり、合計20名で実施した。

派遣いただいた土佐清水ライオンズクラブにお礼を申し上げたい。また2名の先生方には、土佐清水でのご活躍を期待し、LQWSの広がりをお待ちしている。

開会時に土佐市教育長から「今後とも土佐市として、このWSを初任者研修とし行う」と、ライオンズクラブへのお礼の挨拶を戴いた。土佐清水中学の先生方は初めての土地で、知らない方ばかりの

は、今回の大きな成果の一つだと言える。

また、ライオンズクラブのメンバーからは、今までとは違う目線で理解して頂くことができた。自分たちの活動に取り入れることは決して難しいことではないと理解されたことは、336-A地区での普及につながったのではないかと自負できたセミナーだった。

土佐ライオンズクラブ
青年・LCIF・ライオンズクエスト
委員長 吉村 政男

中、大変緊張の様子であったが、北山講師の巧みな指導により、すぐに溶けこみ、全員が土佐市内の先生方のようにであった。

例年通り最後の感想では、「2日間は大変楽しいなあと思っていたが、このように楽しい研修は初めてで、アツという間の2日間でした」「2学期から早速取り入れてみたい」などの感想を聞くことが出来た。

それよりも心強く感じたのは、中学校校長より「中学校では部活動のために、まだ参加していない先生方に、このWS時は部活動を休みにし、来年は参加できるように今から予定する」と言われたので、来年に期待している。



第8回鳴門ワークショップ

ライフスキルを系統的に学び身に付けていく

本年度も17名の受講生が参加し、ライオンズクエスト「ライフスキル教育」ワークショップを、8月21日(月)・22日(火)の2日間、開催した。今年で8回目の開催となったが、寺本之人講師のご指導のもと、受講生に熱心に取り組んで頂き、無事に2日間の研修を修了することができた。今年度からこれまでの「小学校版」「思春期版」に加えて、新たに「幼稚園・保育版」が導入されることとなり、今年は例年に比べ、幅広い教育現場の皆様にご参加頂くことができた。

2日間の集中研修だが、ワークショップ形式の模擬授業により、子どもたちが安心できる良い雰囲気の中で多様なライフスキルを系統的に学び、練習し、身に付けていくための方法を、受講生ご自身の体験により学んでいただけたものと思っている。

今回の受講生が、それぞれの地域、職場、家庭でワークショップで学んだことを実践され、このプログラムでの教育を受けた一人でも多くの子ども達に、ライフスキルを身に付けることにより、学校や社会で困難なことに出合ったときに、負けずに力強

鳴門ライオンズクラブ
会長 岡島 哲也

く生きて行ってくれればと願っている。

私たち鳴門ライオンズクラブは、未来ある子ども達のために、今後も「ライオンズクエスト ライフスキル教育」活動を続けていく。



夏季の活動を振り返って

青少年・LCIF・ライオンズクラブ
委員長 春木 扶佐子

夏季ライオンズクラブエスタの活動は公募型ワークショップ3回とセミナー1回が開催され、43名が修了された。

土佐ワークショップは従来の校内型ワークショップが学校側の行事と重なり、公募型に変更。しかし、近隣クラブからの協力もあり、次回に希望が持てるワークショップとなった。坂出ワークショップも市内の行事と重なり、教員参加はなかったが、

多方面からの参加をいただき開催された。

8回目となる鳴門ワークショップも小学校の登校日や中学校の行事と重なり、参加者募集に苦労されたが、7月から導入された幼・保育園版への関心の高さと鳴門市教育長、岡島哲也鳴門ライオンズクラブ会長をはじめとするメンバーの熱心な力が合わさり、新たに参加対象を広げることができた。

鳴門ライオンズクラブの取り組みが9月23日、東京で開催された「ライオンズクラブエスタ説明員研修会」でワークショップ開催の成功事例として紹介された。

高知セミナーは、従来のワークショップ開催から原点に返り、クラブの活動とクエストの繋がりに焦点を当ててセミナーを開催。今までは違う内容を奏し、参加者の理解度が増したセミナーとなった。

単独クラブでのワークショップ開催は、それぞれ苦労をされていますが、継続することが青少年の健全育成に繋がると信じている。クエストプログラムが子どもたち

に届くためには、まだまだ多くの課題があります。クエストは難しい、よくわからないという意見をよく聞きます。私たちの役割は、直接プログラムを実践するのではなく、プログラムを提供すること、資金援助をすることです。まずはセミナーでプログラムを知っていただき、ワークショップに誘いましょう。

伝えて下さい

あなたのそばにいる子どもたちへ
ライフスキル—生きる力

来春には、初めてライオンズクエストの取り組みを検討しているクラブが、新たなセミナーを開催できそうです。

鳴門ワークショップを受講 今後の生き方や考え方の大きなヒントに

鳴門ライオンズクラブ

友枝 美恵子

今まで仕事の都合がつかず参加することができなかったが、去年参加した職場の同僚たちの「参加して本当に良かった。難しかったけど勉強になった」という声を聴いたことや、夫の勧めもあり、今回やっと参加することができた。

期待どおりのワークショップの内容であり、すばらしい資料と修了証もいただけたこと。おいしいお弁当と飲み物・おやつ付きであったこと等々、こんな贅沢な研修は初めての経験であった。

もっと早く受講していたら、仕事や子育てに活かすことができただろうにと、内容が良かっただけに少し残念にも感じた。参加させていただいたことを無駄にせず、今後の人生に生かすよう努力したいと考えている。

ワークショップの中で一番心に残っていることは『感情のコントロール「谷底から頂上へ」』である。人間は誰でも失敗や後悔をするし、私自身も様々な失敗を繰り返してきた。「恥ずかしいからやめよう、今更、何かしたってどうにもならない」というマイナス思考で終わり、それ以上は考えることをやめて、わざと忘れるようにしたこともあったように思う。

しかし、今回「違う考え方」をすることで、悔やんでばかりでは何にもならない、前向きな考え方を取り入れ、チャレンジして、その結果が100点でなくても、それなりの達成感を感じ、その後のやる気に繋がるのだということを学べた。

全てがうまくいくとは思わないが、一步立ち止まり、違う考え方をしてみることは、猪突猛進型の私には、今後の生き方や考え方への大きなヒントになった。

また、「やさしさプレゼントグラフ」という良い方法を教えてもらった。

- ①やさしくしてあげる
- ②ほめてあげる
- ③教えてあげる
- ④ものをあげる……。

この4つは、常に頭に入れて毎日を過ごしたい。そして私自身も……ほめてもらいたいし、やさしくしてもらいたい……ということ、身近な人に気づいてもらい、実行してもらえるように、グラフを作成してそっと部屋に貼っておこうと考えている。

結成55周年記念例会

阿南ライオンズクラブ

会長 木本左起子

結成55年の今期、私は女性として初のクラブ会長を拝命致しました。心の中で何かを残したいと思っていた私は、当初計画になかった結成55周年記念例会を開催することにしました。

地区委員の例会訪問日を記念例会日に定め、記念事業として新会員入会式をすることにしました。目標はガバナーの招請です。記念例会まで僅か2ヶ月。会員が一丸となりライオンズクラブのPRと勧誘に汗を流し、正会員3名と家族会員3名の獲

得ができました。

その甲斐

あつて9月20日の記念例会は、川辺ガバナーご臨席のもとに来賓23名を迎え、成功裏に終えることができました。

私にとって会員が増えた喜びはもちろんです。目標に向かって会員が団結できたことが嬉しかったです。このたびの新会員の中には、当クラブの重鎮、地区年次大会出席52回を誇る村田ライオンのご子息の顔もありました。ライオンズの素晴らしい奉仕の精神を次世代に繋げていきたいと願う私の想いに応えてくださったのかと思うと心が熱くなります。これからは「親子で会員」も推進していきたいです。

55周年を契機に先輩の残してくださった実績に感謝しつつ良き仲間とより積極的に活動して参ります。



結成45周年記念式典

三豊ライオンズクラブ

会長 十川 剛

10月15日、琴参閣において結成45周年記念式典を開催し、浜田恵造香川県知事、川辺信郎336-A地区ガバナーをはじめ多数のご来賓のご臨席を賜り、また大韓民国より姉妹クラブのSAE晋州ライオンズクラブの皆様をお迎えし、盛況のうちに終えることができました。心より御礼申し上げます。

記念事業といたしましては、丸亀ライオンズクラブと合同でLCIF一般援助交付金を活用し、日本赤十

字社香川血液センターへ血液緊急運搬車両を寄贈いたしました。

また、三豊ライオンズクラブ単独では、三豊市へキッズブレイマットの寄贈、香川アイバンクへ協力金の寄付等を行いました。

祝宴では地元の和太鼓集団「響屋(おとや)」の皆さんによる迫力のある演奏に始まり、その後は和やかな雰囲気の中で、ご来場の皆様楽しんで頂けたのではないかと考えております。

メンバーの皆様には、お忙しい中それぞれの役割を果たしていただき心より感謝申し上げます。

45周年の節目にあたり会員一同、諸先輩方が築き上げられた歴史を再認識し、新たな5年に向けて「ウィサーブ」の精神に則り、より地域の要望に答えられる奉仕活動を行ってまいりたいと考えております。





バーが半数以上と内心不安でしたが、クラブ一丸となり結成40周年記念大会を遂行することができました。このチームワークで、さらに新たなメンバーを加え次回の結成45周年記念大会に向けて、ウィサープの精神で日々奉仕活動に取り組んで参りたいと思います。

10月21日、いよてつ高島屋にて結成40周年記念式典を開催し、各界のご来賓各位と川辺ガバナ―、地区役員、姉妹クラブの倉敷阿知LC、ブラザークラブなど多数のご臨席を賜り無事終了することができました。
記念事業としては、
①松山市民吹奏楽団第44回定期演奏会の特別協賛と募金活動を行い、会員からの寄付金を併せて社会福祉法人コイノニア協会に子どもたちの健全育成を願って寄付。
②倉敷阿知LCとの合同事業として

③336-A地区合同アクティビティ
「四国の子どもたちにライフジャケットを贈ろう」事業に参加。
④愛顔つなぐえひめ大会（第17回全国障害者スポーツ大会）へスपोर्टドリンク寄贈。
⑤愛媛万葉苑へ「葉守りの神」が宿る縁起の良い柏の木の植樹。
前回の結成35周年記念大会を経験していないメンバーが半数以上と内心不安でしたが、クラブ一丸となり結成40周年記念大会を遂行することができました。このチームワークで、さらに新たなメンバーを加え次回の結成45周年記念大会に向けて、ウィサープの精神で日々奉仕活動に取り組んで参りたいと思います。



が出来ました。人は60歳の還暦を過ぎると、気力も体力も衰えがちです。しかし我々丸亀LCは、ウィサープの雄叫びの下、益々若々しく、知的で、寛容の精神にあふれたクラブであり続けたいと思います。

我クラブは60周年に向けて、4年前に「会員数100名で周年を迎えよう」という丸亀ライオンズクラブドリムプラン計画を達成し、周年記念事業や記念式典・祝宴の開催に際しても「過去に感謝し、今を喜び、未来に夢馳せる」とのコンセプトを掲げました。先輩諸氏の努力に感謝し、社会奉仕のできる今を喜び、100周年を迎えたクラブの未来の姿に夢を馳せ、メンバー全員で楽しむという意味です。

祝宴も知事、市長、ライオンズクラブ国際協会関係者をはじめとするご来賓、また台湾彰化縣LCと石川県七尾LC、福井県小浜LCの姉妹・友好クラブ、そして県内ブラザークラブの皆様など総勢320名近くの参加者で、厳粛な中にも友情に溢れる宴を催すことが出来ました。



結成40周年記念式典

松山南ライオンズクラブ
会員委員長 近藤 淳

結成60周年記念式典

丸亀ライオンズクラブ
会長 田中 祥友
大会委員長 近澤 亨

記念式典・祝宴は、前日の記念ゴルフ大会に続き10月22日に開催しました。大型台風が接近したこともあり、両日とも悪天候となりま

結成40周年記念式典

阿波勝浦ライオンズクラブ

会長 稲井 稔

阿波勝浦ライオンズクラブ結成40周年式典を10月22日に月ヶ谷温泉で挙行了しました。当日は超大型台風21号が接近し、悪天候にもかかわらず飯泉知事をはじめとする来賓各位、宮島キャビネット会計など地区役員・委員、スポンサークラブの小松島ライオンズクラブ、そして14の友好クラブと多くの皆様方にご出席いただき、また温かな祝辞を賜り、厳粛なうちに式典を終了することができました。阿波勝浦ライオンズクラブ会員一同感謝を申し上げます。

さて、わがライオンズクラブは目



標の一つに「青少年の健全育成」を大きく掲げています。その活動は学校現場の環境美化、樹木の剪定、校庭の草抜き、青少年のスポーツ活動の支援（野球・バレー・駅伝等々）。また、伝統文化の継承としては、中学生の注連縄作り、小学生の雛人形飾り等の体験学習。ふるさと発見としては、出前授業（勝浦川の湊、ピッグなひな祭り、みかん学習等々）。地域探訪では「町の宝を見つけよう」を課題にして、これからも感性豊かな子どもたちの成長を願い、邁進したいと思っています。

結成40年の歴史と伝統を踏まえ、既存の奉仕活動にとらわれることなく、未来に向かって会員24名、新しい活動に挑戦したいと思います。 Ⅱ 地域に感謝、さらに前進Ⅱ

結成35周年記念例会

東温ライオンズクラブ

会長 長曾我部 晋

11月12日、松山城を仰ぎ見る東京第一ホテル松山において、友澤節男第二副地区ガバナ―、吉田稔リジョン・チェアパーソンをはじめとする1R地区役員・地区委員の皆様、スポンサークラブ、ブラザークラブの皆様のご出席を頂き、東温ライオンズクラブCN35周年記念例会を開催致しました。

東温ライオンズクラブは1982年6月に松山西ライオンズクラブの



にわたり地域に密着し、親しまれるクラブとしてさまざまな奉仕活動に取り組みで参りました。

記念例会には、チャー

ターメンバーの一人である廣川和高氏が、チャーターナイトで着用した当時の衣装をまとい元気に参加して頂き、結成当時に想いを馳せることができました。

35周年の記念事業としては、青少年健全育成をテーマとし、東温市のこども館へ夢と希望を与えるライオン文庫として絵本の寄贈、松山市小野地区へ子ども見守り活動をサポートする安全ベストの寄贈等を実施致しました。

現在では会員数26名の小規模クラブではありますが、家庭的な雰囲気の中で会員が一致団結し、更なるライオンズの高揚を目指し頑張る所存です。



結成50周年記念式典

綾歌郡ライオンズクラブ

会長 横井 薫

我が綾歌郡ライオンズクラブは結成50周年記念式典を11月12日、坂出グランドホテルで開催しました。式典には、水本勝規香川県議員、藤井賢綾川町長、萬代保男オイスカ四国研修センター所長、川辺信郎336-A地区ガバナーはじめ多数のご臨席を賜り、また姉妹クラブの北海道秩父別ライオンズクラブ、各ブラザークラブの皆様方をお迎えし、盛大な式典となりました。



国研修センター並びにライフジャケツトを贈る事業とライオンズクレストに支援金を寄付しました。

開宴前には、我がクラブの会員がリーダーであり、ボランティアとして各方面で演奏活動を行っているテル&マサキンテットによる演奏があり、参加者全員の心を引きつけ、盛大な拍手に包まれました。



その後、石川裕之RCのご祝辞、高木信義ZCの乾杯で祝宴が始まりました。終始和やかな雰囲気の中で、ウィサーブの精神を改めて再認識するとともに、未来に向け更なる発展とお互いの健闘を讃え合う場面も見られ、すばらしい祝宴となりました。50周年を契機に、諸先輩方が築き上げてきた歴史を受け継ぎ、将来の発展に向け、会員一同精進してまいります。

と、未来に向け更なる発展とお互いの健闘を讃え合う場面も見られ、すばらしい祝宴となりました。50周年を契機に、諸先輩方が築き上げてきた歴史を受け継ぎ、将来の発展に向け、会員一同精進してまいります。

結成50周年記念式典

伊野ライオンズクラブ

会長 竹本 範雄

「和と礼節」をモットーに、私ども伊野ライオンズクラブは高知ライオンズクラブのスポンサーにより昭和42年3月に結成され、以来スポンサークラブの温かいご指導とブラザークラブのご支援を頂きながら50周年を迎える事が出来ました。

11月19日の式典には、尾崎正直高知県知事、池田牧子いの町長、戸梶



眞幸日高村長、川辺信郎336-A地区ガバナー(東南アジアフォーラム出席の為ビデオレターによる祝辞)や地区役員、県内のライオンズクラブから多くのご出席を賜り、また温かいご祝辞を頂戴いたしました。

当クラブは、水質日本一の仁淀川の中流域にあり、アクティビティとして「仁淀川の清掃」「黒森山の植樹」等による仁淀川環境保全に取り組んでいます。また、「献血支援活動」や「薬物乱用防止活動教室」、「介護施設への出前落語」、「花壇の花植等の管理」(2ヶ所)「ライオンズカップ少年サッカー大会」、「古切手回収支援」、「平和ポスター」、「伊野町健康まつりへの参加」、「川内生き生きクラブ餅つき・正月飾り支援活動」等地域に密着した様々奉仕活動を続けております。

これを機会に、今後も「和と礼節」をモットーに60周年に向けて、会員相互理解の元、更に奉仕活動に精進し、仲良く力を合わせ頑張つて参る所存でございます。

第56回 OSEALフォーラム

アジア地域のライオンズパワーを実感

MC・ライオンズ情報・地区誌・大会参加委員

2R担当 阿部 国弘

今年、MCの地区委員を引き受けましたが、同時に「大会参加」委員でもあり、例会訪問や合同例会ゾーンの委員会などに呼ばれるたびに「近々OSEALフォーラムがあります。今年台湾です。今なら登録料が若干安いので、ぜひみなさん参加してください」と言っていた手前、自分が行かないのはダメだろうと、締め切りギリギリでオフィシャルコースに申し込みました。とはいっても30年ぶりの海外旅行。こういう世界レベルの大会も、昨年の福岡にちよこつと顔を出したただけだったので、一大決心の登録でした。

11月17日の早朝、広島空港から中華航空で台北花園空港に向けて出発。台北から日本製の新幹線で一路高尾へ。この日は移動だけで1日を費やしました。

翌日の午前中は高雄市内をさつとバスで観光して、昼食後、会場である「高雄巨蛋（高雄アリーナ）」に到着。入り口はテロ対策のセキュリティチェックの関係もあって、大勢のメンバーでごった返していました。並

ぶごとおよそ30分、翻訳機を受け取ってようやく入場。ドーム内を埋め尽くした、約2万5000名のアジア地域のライオンズが開式を待っています。開会までは各国の国際理事がビデオレターを上映していました。

13時を少し過ぎたころ、賑やかな音楽と照明で、台湾の神様を模倣した大きな人形が登場し、OSEALフォーラムが開会しました。オープニングパレードでは、大会役員に続いてわが川辺ガバナードも入場、登壇されました。その後、台湾の太鼓演奏と雑技団によるアクロバティックな踊り、ボーカリストによる歌の披露。その間も3台ある大型スクリーンには、台湾各地の風景と現地のライオンズクラブの人たちによるプロモーションビデオが流れていました。最後に国際会長のナレシユ・アガワル氏が登壇し、オープニングパレードはひとまず終了しました。

今大会の実行委員長長の挨拶に続き、国際会長がスピーチで、東洋東南アジアの団結力の強さと実行力に敬意を表されました。





続いて高雄市長陳菊氏、台湾総統（大統領）蔡英文氏の歓迎の挨拶がありました。お二人とも女性でした。ライオンズクラブ国際協会も第一副会長は女性です。これからますます女性が活躍する時代と社会を実感しました。

これからの1000年を誓う気球が打ち上げられ、お祭りで使う着ぐるみ人形のダンスパフォーマンスのあと、会場全員で「I LOVE LIONS」を合唱して開会式は16時過ぎに終了しました。

そのあと会場を林王宮に移したジャパンナイトにも招待していただきました。ここでは国際理事候補者の激励に国際会長をはじめ、元国際会長から第二副会長まで錚々たるメンバーが顔を揃えました。

興奮冷めやらぬまま、バスにて台南擔仔麵海鮮餐廳へ移動し、ここで今日1日を締めくくるMD336の

夕べが開催されました。

わが地区の川辺ガバナーの開会挨拶で和やかな上にも賑やかに開宴し、海鮮料理を中心とした中華料理を堪能しました。再来年はこのOSEALフォーラムが、日本、さらにはわが336複合地区、広島で開催されることが決まり、参加メンバー全員で協力と成功を誓い合いました。

宴も進み336ID地区の女性ガバナー、秋田さんが各第一副地区ガバナーを紹介し、336A地区の関野邦夫第一副地区ガバナーもスピーチをされました。最後に地区ごとに集合写真を撮り、MD336の夕べは終了しました。

ツアー日程の都合で、閉会式には出席できませんでしたが、爽りのある初OSEALフォーラム参加でした。お祭りの要素も強く感じましたが、アジア地域のライオンズパワーを目の当たりにした4日間でした。



OSEAL フォーラムとは

現在、米国/カナダ・ヨーロッパ・OSEALなど8地域で国際フォーラムが開催されており、フォーラムが開催される地域のライオンズ会員全員に参加を呼び掛けている。

フォーラムは、次の4項目を目的としている。

- ライオンズクラブ国際協会の目的と方針を促進する
- 地区及びクラブ役員の訓練、教育、意欲喚起を行う
- 合同奉仕事業の機会も含めて奉仕活動について情報・意見交換を行う
- LCIFに対する理解と認識の向上をはかる

しかし、フォーラムでの決議は、会員およびクラブに対し拘束力を持たないという点で地区大会、複合地区大会、国際大会とは基本的に異なっている。

OSEAL フォーラムのルーツは、1957年マニラでの第1回アジア大会に始まる。今日のOSEAL フォーラムは、5年後の1962年にマニラで開かれた大会を第1回としている。日本での開催は1964年9月の京都での第3回OSEAL フォーラムが初めてである。



第30回国際平和ポスターコンテスト 今年の最優秀賞など17点を選出

Lions International Peace Poster

今年、30回目を迎えた国際平和ポスターコンテストの審査会が、11月23日にホテルサンシャイン徳島にて開かれた。「平和の未来」をテーマに336-A地区の児童・生徒から191点の作品が寄せられ、最優秀賞など7つの賞と優秀賞を選出した。最優秀賞に選ばれた西条市立西条南中学校1年の今城千尋さんの作品は、336-A地区の代表作品として336複合地区へ送られた。

当日は午後2時より川辺信郎地区ガバナ―、鈴木久人審査委員長よりご挨拶をいただき、春木扶佐子青少年・LCIF・ライオンズクエスト委員長より審査方法について「各審査員に10枚の付箋紙を配布します。はじめにライオンズ関係者5名に、1人10点の作品を選んでいただき、続いて専門家の方々も同様に作品を選び、付箋紙が多く貼られた作品の中から専門家の方々に最優秀賞を含めた17点の賞を選んでいただきます。テーマの表現が十分に表現された独創性、芸術性に富んだ作品の選考をお願いいたします」との説明が行われた。

ゲスト審査員の方々はこうした経験もあるようだが、キャビネットの面々は初めてのことであり、その責任を感じてか、真剣に春木委員長の説明に耳を傾けていた。

191点の作品といえたいしたこともないように聞こえるが、3階の大広間に並べられた作品は圧巻であった。この中から選出されるのは17点だけなのである。一見しただけでは、どれが上手いのか、下手なのか見当もつかない。審査方法を思い出しながら1点1点に目を凝らしていく。「審査方法は同じでも、ゲスト審査員とは見る目が違うような気がした」と言いながらキャビネット関係の審査員の奮闘が続いた。

191点の作品と格闘すること、およそ1時間30分。ようやく審査を終えた。審査基準は「独創性・芸術性・テーマの表現力」であり、審査方法も守ったが、キャビネットの審査員は不安を隠しきれない様子だ。鈴木久人審査委員長より最優秀賞など審査結果が順次発表された。まるで自分が応募したような緊張の瞬間であった。

最後に鈴木久人審査委員長は、今回の応募作品について「ポスターの





最優秀賞



今城 千尋さん

(西条市立西条南中学校・1年) 西条石鎚 LC

審査と聞き平面的な作品を予想したが、奥行きのある作品が多く、こんなにレベルの高いコンクールがあるのかという印象を受けた。ディテールに対するこだわりが強い作品が多くみられ、平和とか未来に対する子どもたちなりの回答という解釈というものが感じられた。選ばれた作品は優秀賞に匹敵する作品が多く、あと少し描き込めばという作品が多かった。全体にレベルが高く、審査をしていて楽しい作品ばかりでした」と講評された。

また、国際平和ポスターコンテストの主管委員会である春木扶佐子青少年・LCIF・ライオンズクラブエスト委員長は「四国4県から素晴らしい作品が集まり、本日、選ばれた最優秀賞作品は、中四国の複合地区で審査されます。子どもたちが平和について真剣に考えた思いがポスターを通して伝わり、私たちも平和について考える良い時間をいただいたと思います。長時間の審査をありがとうございました」とお礼を述べ、第30回国際平和ポスターコンテストの審査を終了した。

MC・ライオンズ情報・ 地区誌・大会参加委員長賞



小澤 春日さん

(松山市立新玉小学校・6年)
松山つばき LC

キャビネット会計賞



山口 心響さん

(高知市立横浜小学校・6年)
高知桜 LC

キャビネット幹事賞



村上 明さん

(宇和島南中等教育学校・1年)
宇和島 LC

地区ガリケー賞



板東 美佑さん

(上板町立松島小学校・6年)
上板 LC

優秀賞

竹葉 らん	松山市立久米小学校・6年	松山西 LC
澁谷 美優	新居浜市立西中学校・1年	新居浜 LC
眞木 彩愛	今治市立北郷中学校・1年	今治 LC
宮部 翼	西条市立神拝小学校・6年	西条 LC
大谷友莉菜	直島町立直島小学校・5年	直島 LC
谷本 和輝	多度津町立多度津小学校・6年	多度津 LC
武田 優希	高知市立鴨田小学校・6年	高知北 LC
大黒もえ花	安芸市立安芸中学校・1年	高知安芸 LC
桑村 侑莉	徳島市立大松小学校・6年	徳島南 LC
松永 怜士	阿波市立市場中学校・1年	阿波 LC

青少年・LCIF ライオンズクエスト委員長賞



高塚 絢湖さん

(香川大学教育学部付属高松中学校・1年)
高松北 LC

審査委員長賞



白石 愛美さん

(西条市立河北中学校・1年)
東予 LC

GMT・FWT研修会

9月16日、徳島県立総合福祉センターに250余名が出席し、東日本FWT（家族及び女性チーム）エリアリーダー小川晶子（東京ウイールC所属）さんを講師に招き、「FWTの責任（会員増強について）」と題し、講演していただいた。

小川さんは「女性会員のリーダーを育成し、女性の視点で新しい奉仕活動を創造し、その質の高い奉仕を通じて会員増強を図るという責務を担っております」とFWTの役割と女性リーダーの育成を訴えた。

FWTの活動事例として「私たちは3年前に、日本の子どもの貧困を改善するためにライオンズのできることをテーマにシンポジウムを開催し、メンバーから多くのご意見をいただきました。そして、貧困の連鎖を断ち切るためには子どもたちへの教育が一番大切であるという点で一致しました。シンポジウムで学んだ



FWTコーディネーターは、各地域で特性を生かし7人に1人という日本の子



どもの深刻な貧困に取り組んでおります」と述べ、さらに「女性会員の指導力育成フォーラム・セミナー・ワークショップと小さな規模ではありますが、着々と力を蓄えております。是非、女性会員をボードメンバーに起用していただき、ライオンズクラブ牽引の両輪となるようご指導ください」と女性会員の活用を訴えた。

しかし、小川さんは「楽しくなくてはライオンズではない。必要とされること・役に立つこと・愛されること・褒められることは究極の幸せです。ライオンズにはすべてがあります。多くの仲間を誘って意義深いアクティビティを積み重ねて参りましょう」とも訴えた。

続いてGAT組織についてパワーポイントでの説明があり、FWTはGATの一員として他のチームと連携して活動することも付け加えられました。

女性リーダーとして実績を挙げられている小川さんのユーモアを交えての研修は短く感じられ、研修会は盛會裡に終了しました。

GLT・GST・LCIF研修会

10月8日、320名余が出席し、四国中央市福祉会館に橋本充好MD 336LCIFコーディネーター・GSTコーディネーターを講師に招きし研修会を開催した。

「ライオンズはLCIFオワードという新たな戦略を掲げ、次なる



100年のスタートを切りました。本年度から新たにグローバル奉仕

チーム(GST)が設置され、既設のグローバル会員増強チーム(GMT)、グローバル指導力育成チーム(GLT)と三位一体となり、グローバル・アクシオンチーム(GAT)という世界的な体制を築き、GSTIIグローバル奉仕チームは、各クラブが内容の充実した奉仕事業を行い、会員ひとりひとりの奉仕への意欲をより高めることを支援するのが大きな役割です」とGSTの意義を説明した。

LCIF研修では、クラブLCIFコーディネーターとLCIF地区コーディネーターの役割と責任について話され、特にクラブLCIFコーディネーターの役割は「自クラブで

のLCIFに対する意識高揚に取り組み、交付金事業の機会について啓発活動を行い、LCIFを強化する責任がある」と熱く語られた。

LCIFへの献金は100%交付金として奉仕事業に使われており、GATとLCIFの関係は共通の目的に対して奉仕することで、LCIFへの寄付の方法及び種類、寄付金の現状、財務目標、寄付の必然性、交付金の申請の仕方、交付の可否などについての詳細な説明がなされた。

最後に336LCIFコーディネーターとして橋本さんは、「LCIF創立50周年に向けて記念キャンペーンを展開しています。昨年は336地区ではゼロクラブがありませんでしたが、寄付金ゼロクラブをゼロにするという目標があります。また、MJF献金はクラブ1名、日本レベルで1千万ドルを集めようという目標を掲げました。336複合地区では約150万ドルです。ご理解とご協力を宜しくお願い致します」と協力を呼び掛けました。

研修内容は多岐にわたりましたが、予定時間より早い、午後3時過ぎに研修会は終了しました。



物故会員

謹んでお悔やみ申し上げます

①氏名・享年 ②所属LC ③入会年月日 ④没年月日



①小松 武道(89歳)
②2 R - 1 Z 新居浜
③1968年10月1日
④2017年8月28日



①山下 晋(90歳)
②4 R - 3 Z 長尾
③1964年4月17日
④2017年8月26日



①横井 文明(62歳)
②2 R - 1 Z 新居浜ひうち
③1996年2月1日
④2017年7月21日



①山下 定利(66歳)
②3 R - 3 Z 伊予吉田
③1996年4月1日
④2017年7月3日



①竹林 正和(97歳)
②5 R - 2 Z 善通寺
③1962年6月19日
④2017年6月29日



①三木 忠憲(74歳)
②8 R - 1 Z 徳島南
③1996年8月1日
④2017年10月3日



①松浦 直児(64歳)
②3 R - 2 Z 八幡浜
③2008年6月26日
④2017年9月25日



①藤井 利光(75歳)
②9 R - 2 Z 鴨島
③1992年8月20日
④2017年9月25日



①宮下 馨(93歳)
②6 R - 3 Z 四万十
③1969年7月1日
④2017年9月20日



①林 紘毅(77歳)
②5 R - 1 Z 坂出白峰
③1973年10月1日
④2017年9月14日



①中井 正治(95歳)
②7 R - 2 Z 高知桂
③1965年10月8日
④2017年10月26日



①奥村 盛弘(86歳)
②1 R - 2 Z 松山道後
③1961年1月1日
④2017年10月18日



①奥本 友幸(90歳)
②8 R - 1 Z 徳島
③1963年4月1日
④2017年10月15日



①続木 隆夫(81歳)
②1 R - 3 Z 松山中央
③1983年3月1日
④2017年10月11日

編集後記

▼事務的で固い文面より、自然で読みやすい文面に！毎回の地区誌「しこく」を楽しみに読んでもらえるよう！関勝美委員長からこのアドバイスをお聞きした時、とても納得したのです。実は私……今まで地区誌をゆっくり読んでなかったのが実情(反省しきり)。これを機に、次回の発行を心待ちにしてもらえような地区誌「しこく」を、関委員長を中心に作っていきたいと思います。(1 R 担当 宮内梨寸子)▼地区委員の活動を始めて3か月が過ぎました。特に9月は行事が目白押しで、仕事とのやりくりを付けるのが大変でした。例会などに呼ばれたときの挨拶の締めには必ず「みなさんが誇りを持ってライオンズ活動に取り組んでいただくのが一番のMC活動」と言っているのですが、結構気恥ずかしく、ついつい笑ってしまい、あとで反省している私です。(2 R 担当 阿部国弘)▼愛媛国体が終わりました。我が家でも、少年女子バレーボール福島県チームの4人の民泊を受け入れ久しぶりに、明るく、すがすがしい空気が我が家に流れました。3泊4日の民泊でしたが、子どもたちが帰ってしまうと、ぼっかり穴があいてしまっただけ、一生懸命だった妻は、2日ほど寝込んでしまいました。これは、少年女子バレーボールチームの民泊を受け入れた鬼北町全体に言えることで、巷では「民泊ロス」と言っているそうです。そして、あらためて若者の素晴らしさと、人の世において老若男女のバランスの大切さを思い知らされた、切ない瞬間でもありました(3 R 担当 渡辺眞次)



2018年4月7日・8日
徳島市／アスティとくしま
徳島市山城町東浜傍示1

4月7日(土)

記念ゴルフ大会

- ・徳島カントリー倶楽部月の宮コース
- ・サンピアゴルフクラブ
- ・眉山カントリークラブ

日韓親善国際交流の夕べ

- ・徳島グランヴィリオホテル

4月8日(日)

徳島市／アスティとくしま

- ・指名選挙会(電子投票)
- ・代議員分科会
- ・代議員総会
- ・ガバナー昼食会(アトラクション)
- ・大会式典

藍のある国 阿波へ

~Love~



みんなで手を挙げヤットサー ヤットサー

ライオンズクラブ国際協会336-A地区

第64回 地区年次大会 徳島大会



ガバネースローガン

新世紀・明日につなごう 奉仕の輪

ガバナーキーワード 初心

ライオンズクラブ国際協会336-A地区
第64回 地区年次大会事務局

徳島県徳島市東沖洲1-1-4 マリンピア会館2F
Tel:088-677-9336 fax:088-677-9993
Email:tokushima336@tiara.ocn.ne.jp

『花へんろ』

大寶寺は愛媛県久万高原町にあり、創建は701年(大宝元年)といわれる。標高490mの高原にあり、夏はひんやりとした空気が漂い、冬は雪で覆われることもある。境内には杉の古木が立ち並び幽寂な空気が漂う。88ヶ所の折り返し地点であることから、中札所とも呼ばれている。



第42番札所仏木寺に咲き誇る秋桜の花



2017~2018 ライオンズクラブ国際協会
336-A地区 徳島キャビネット事務局
〒770-0873
徳島県徳島市東沖洲1-1-4 マリンピア会館2F
Tel:088-677-9336 fax:088-677-9993
Email:tokushima336@tiara.ocn.ne.jp

ライオンズクラブ国際協会336-A地区
地区誌 第100号 No.2

発行日 平成29年12月15日
発行所 336-A地区 徳島キャビネット事務局
発行人 川辺信郎
編集 MC・ライオンズ情報・地区誌・大会参加委員会
印刷 株式会社印刷工房